

(半田市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校14校、中学校6校、特別支援学校0校 ※小中学校には分校を1校ずつ含む		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	0人	
		地域学校協働活動推進員	24人	
		統括コーディネーター	0人	
		地域コーディネーター	0人	
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小13校	中5校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小0校	中0校	



(活動の実際)

《半田市学校運営協議会連絡会》

半田市では、基本的に学期に一度、年に3回「半田市学校運営協議会連絡会」を開催している。

目的：①市全体で、「学校のニーズ」と「応援団のニーズ」、「地域のニーズ」とのすり合わせ

②連絡事項の伝達や様々な課題の共有・検討、情報交換会等

参加者：地域学校協働活動推進員数名と教職員1名

(参加者のうち、教職員については、どの学校からも教頭先生が参加)

【1学期】(令和5年7月19日(水))実施

テーマ：コーディネーターの在り方、「学校と地域とのつなぎ役」の検討

※長年の課題の一つである「学校と地域とのつなぎ役」について改善を図るため

【2学期】(令和5年11月29日(水))実施

テーマ：現状の改善策

※事務局の仕事の役割分担について、現状を振り返り、よりよい方法を見出すため

(◎成果と●課題)

◎連絡会で市内全校の推進員と担当の教職員が集まり、定期的に情報交換を重ねているため、困りごととして挙げたことを市として吸い上げ、課題の解決に努めている。また、情報交換において、他校の取組で参考にしたいことがあった時は、その場でより詳しく聞くことができた。市として連絡会がある意義は大きい。

◎長年の課題の一つとなっていたコーディネーターの役割について1学期の連絡会で取り上げた際、現状の課題として「コーディネーター役を、実際は教頭先生がやってくださっている」という声が複数の推進員から挙げた。現実として、教頭が事務局機能を担っていることも大きな課題の一つになっていることもあり、2学期の連絡会では早速、「現実の改善策」をテーマとして各校の推進員と教職員(教頭)でじっくりと話す時間を設定した。これからも、これまでの経緯を大切に、先を見据えた連絡会を大切にしていきたい。

●推進員の後継者の発掘等、長年課題として挙がっていても解決できないままのものもある。

(関係者の声)

・学校で開催する学校運営協議会や行事の時はじっくりと話し合いをする時間がもてないため、市としてしっかり話し合う機会を設け、時間を確保してくれるのはありがたい。ふだん感じていることや課題等、なかなか話題にできなかったことを話すことができた。(教頭)

・市全体で情報を共有できることで、地域の方々の発案で始まったことが増えてきたと感じる。(かつての担当者)

・できることを考えたいので、市全体の小中学校の現状等、もっと情報を知りたい。(推進員)